

## 文芸部活動 本の紹介・感想

### 『ハリーポッターと賢者の石』

野垣宏太

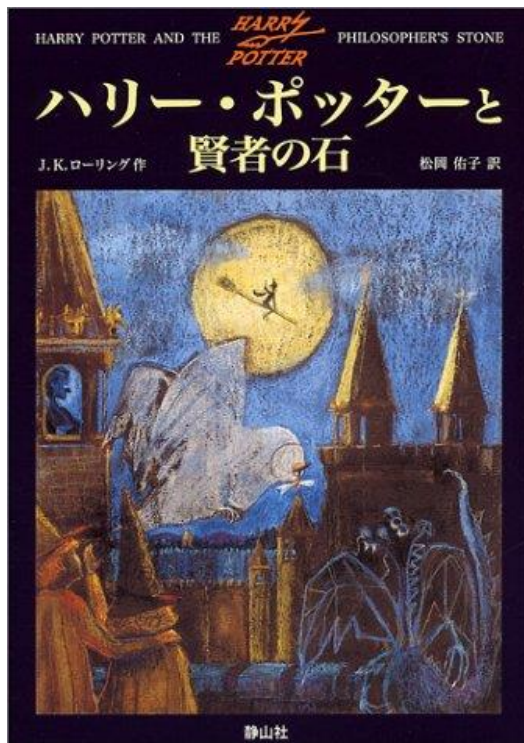
さあ、初心に戻ってハリーポッターシリーズ一作目。私  
が心から素晴らしいといえる作品の中のトップクラスの  
ものです。皆さんも一回はどこかで読んだこと、耳にした  
ことがあるだろう。小学生のころ図書室で本を借りて読ん  
だ覚えがある。小学生のころドハマりしていた。

きっかけは置いておいて、この話は主人公ハリーが両親  
を殺したヴォルデモートとの戦いを書かれた映画となっ  
ている。全七巻とする超大作だ。

皆さんもご存じの通り全巻映画化されている。こちらも  
観る価値があるだろう。

また映画だけでも観てほしい。また読んだことがない人

は読んでほしい作品である。世界トップレベルのファンタ  
ジー小説だ。



## 『オックスフォード&ケンブリッジ大学

## 世界一「考えさせられる」入試問題

野垣宏太

二冊目の本を紹介しよう。先ほどの本とは一八〇度違う本となっている。この本は解答付き問題集である。もうすでにそこから疑問の嵐であるが、本当にオックスフォード大学とケンブリッジ大学の面接試験にて実際に質問された難問がずらりと並んでいる。恐ろしい。

私も実際数問真面目に解いてみたのだが、結局のところ模範解答のように解答できた問題は一間もなかった。まあ当たり前か。

この本は当たり前だがこちらの二校を受験してみようと思う人にとっては必須アイテムである。まあしかし、受験しようとしている人はいないと思うのが正直なところ

オックスフォード&ケンブリッジ大学

## 世界一 「考えさせられる」 入試問題

「あなたは自分を  
利口だと思いませんか？」



ジョン・ファーンドン 小田島恒志・小田島則子 訳

## Do You Think You're Clever?

THE OXBRIDGE QUESTIONS

by John Farndon

河出文庫

だ。しかし問題と解答を読んでいるところで納得する部分があったり、共感できる部分もあり、とても楽しい一冊である。皆さんも手に取ってみてはどうだろうか。

# 『弱くても勝てます』

野垣宏太

これはノンフィクション。東大合格者数日本一を誇る開成高校。そこでの野球部の話である。

週一回三時間しかグラウンドを使用できない過酷環境、しかしながら、平成一七年の夏の高校野球選手権大会の東京都予選でベスト16にまで勝ち進む快挙を成し遂げた学校だ。

なぜ、過酷な環境下であってもここまでの快挙を成し遂げられたのだろうか。いったいどんな戦略があったのだろうか。

それは彼らの日本をほこる頭脳を駆使したものであった。「確率論」ここまですらでも十分にネタバレ要素がたくさんあるが、ここまでするしておく。この作品はドラマ化されるなど、かなり有名な作品だ。これを読んだことがある人はいるかもしれないが、まだ読んだことない人はぜひ読んで

でみてほしい。考え方が変わるはずだ。



## 『アイ』

金子和生

西加奈子さんの作品は出てくる場所が日本だけでなく海外の情勢や事件などを絡めて作品を作るので今まで自分が感じたことのない世界観、価値観をリアルに感じるこ  
とができて、面白いです。この作品も例に漏れず主人公の「アイ」の生死に関する思考や体験にもついて書かれており実際に起きた事件や紛争も絡めています。

主人公の「アイ」は養子になりお金にも困らず、親にも恵まれて何不自由ない生活を手に入れた。だが、自分は運良く養子になって不自由ないが同じ境遇で苦しんでいる人は沢山いるのに自分だけ幸せになっていいのか、自己のアイデンティティとは何なのかなどについて考えていく  
て言う内容です。

「アイ」が考えている内容は苦しく重い内容ですが一度  
は人が考える内容なので、この本を踏まえると客観的に考

えれます。おすすめです。

この本は紛争や難民、セクシャルな話などの人の感情な  
どの敏感な部分に触れているので好みがわかる本だと  
思います。

けれども自分自身について深く考えさせられ、おすすめ  
の本なので是非読んでください。



## 『生きてさえいれば』

金子和生

この本、恋愛小説のなかでも純愛を書いた本になります。この本は、すらすらと読め、息もつかせぬような展開のはやさが魅力です、

素直で一途な恋で読者側も幸せにさせてくれたり、泣かせてくるそんな小説です。恋っていいな、愛とは深くて素晴らしいものだと感じさせてくれます。それだけではなく、ただ単調な恋愛とは違い主人公の異兄妹に対して家族を失なわせたしまったことに対する後悔、このまま彼女と幸せになっていいのかなどの葛藤からの怒涛の展開が読者をもどかしいような気持ちにさせてくれます。主人公と彼女の彼女とが恋に落ちるまでの過程が痛いような応援したくなるような感じがして、読者をつい感情移入させます。本が苦手な人でも読みやすくすごくハマれます。どろどろとした不快な展開が少なく恋愛小説に慣れてない人で

も気軽に読めます。

この本は僕が一番おすすめする大好きな本なので是非読んでください。



## 『騎士団長殺し』

金子和生

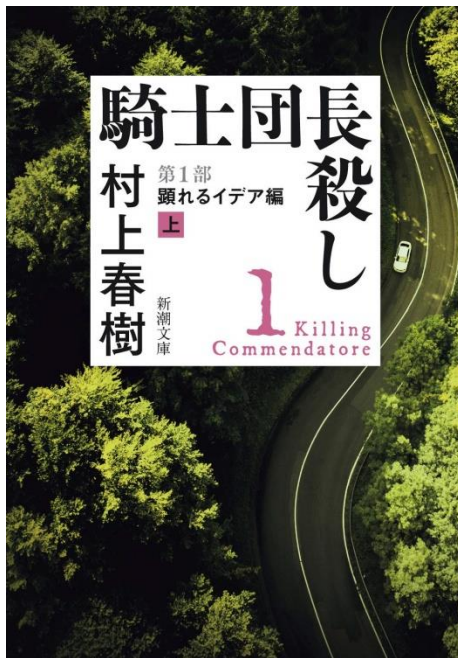
この作品は村上ワールドといふべき深く面白い暗喩、特殊な表現が多く読むのに読む進めるのに時間がかかるかもしれないが、読み終えた後の達成感が凄く、今まで読んだ内容が全て繋がったり、読んでやったぞという幸福感に包まれる作品だ。

「騎士団長殺し」はリアルファンタジーといふべく生々しい内容、表現で本来架空の存在であるものをあたかも現実存在するもののように鮮明に細部や雰囲気まで想像できるように文で伝えてきます。ここまで鮮明な内容だとあたかも自分が直接その出来事を体験しているような気さえしてくる。

絵画教室の少女、その叔母そして騎士団長殺しという作品の複雑でいびつといふべく関係を「私」視点で話として展開しているので統一性、一貫性があり時系列で話をとらえ

やすい。

小説の内容が深く独特で濃い話であり、今まで読んできた小説ではなにか物足りなかったという人におすすめです。是非読んでみてください。



## 『ひとり暮らし』

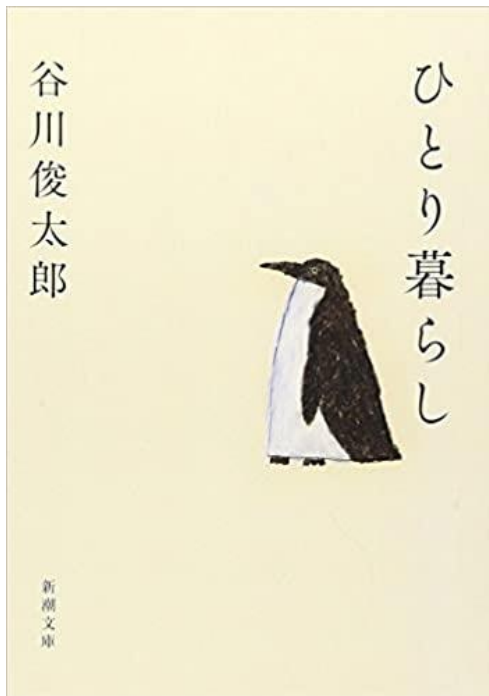
渡辺歩夢

谷川俊太郎。この名前を何度も教科書の詩で見たことがある。その谷川俊太郎の名前が部室の本棚の中で目に留まり、この本を手にとった。日常の中にある何気ない風景を詩人として切り取っていて非常に面白い。ただ詩人としての日常を読むとともに、詩人故に普通の人では少し難しい感じがしてしまう。(知識不足でもあるが。)

この本は日記のような本である。中でも自分が感動したのが、二〇〇一年一月二二日の日記で、こんな文章がある。「夕暮れが近づいて空も海も遠くに見える半島も同じ灰色になった。だがその灰色には白も青もピンクも紫もひそんでいる。」日々見る夕焼けはオレンジというイメージがある。しかし谷川俊太郎は五色の色を織り交ぜて自然美を表現している。詩人の表現はすごいと思った。

前述の通り、少し難しい文章ではあったが、だからこそ

大人になってもう一度読みたいと思える本であった。比較的薄い本だからとても読みやすい本であるのでぜひ読んで見て欲しい。



## 『あと少し、もう少し』

渡邊歩夢

この本は青春の塊のような本だった。駅伝部の一年間を描いた作品で、六人の選手が県大会出場を目指す。

駅伝の知識ゼロの新顧問、レギュラーが決まっていない状態からのスタート。そこから一年を通して生徒、顧問ともに人間的に成長していく過程が描かれている。また、一文が短くテンポ良く語られているので成長の過程が飲み込みやすい。学生時代の自分と照らし合わせてみるのも面白い。(自分の部活とはかけ離れているが)この本は自分の味わう事が出来なかった青春を味わう事が出来た。

この小説は書き方が面白い。前述の通り一文が短くテンポが良い点や、物語の終盤、襷を繋いでいくことに選手別に視線が変わっていく。とても面白い。読みやすくてあとという間に読み終えた感覚になる。是非読んでみて欲しい。





## 『きみの町で』

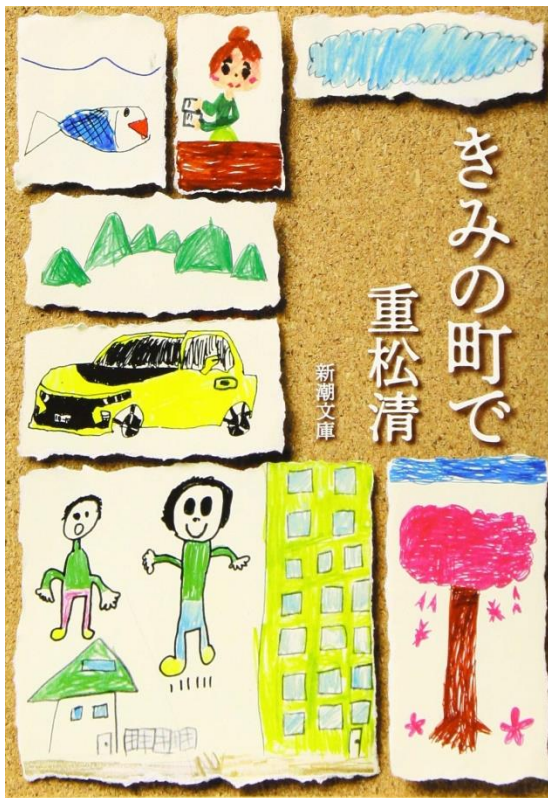
渡辺歩夢

重松清は子供の目線で語られる作品が多く、共感できる内容が多い小説を書くイメージで、好きだからこの本を手にとった。この本では「生きること」を子供にわかりやすく書いた本で、考えさせられる。

この本の中で「あの町」という章がある。この章では震災について描かれていて、ニュースや新聞などのメディアで知ったつもりになっていた事について、被災した人の事を書いていく。正直な所、子供にも分かりやすく書かれたいるが故にとっても心が痛い、心打つものがあつた。また、最も面白いと思つたのは、「電車に二人のおばあさんが乗っていたらどちらに席を譲るか」という話。子供目線で書かれていて共感できた。

全体的に「あなたならどうするか」を問われる感じで面白い。この本はぜひ自身の幼少期に照らし合わせて読んで

見て欲しい一冊である。短編集の本で一作品は短めで本自体も薄いので非常に読み進めやすい。退屈なときにも読んで見て欲しい。



## 『吾輩も猫である』

大庭雄治

ネコは好きですか？可愛いですか？もちろん可愛い答えはYESだ。だが、いつもネコは、どう思っているだろう？そんなことが読んだ後からもっと気になってきた。その前になぜ、この「吾輩も猫である」を読んだのかというと、単純にタイトル名が面白かったからだ。実際に読んでみると、色んな人が一つの本を作っているの、話が別れていてその物語ごとに出てくるネコ達が人間みたいで個性が豊かだった。お話としては、ほっこりするものもあったし、それに対して、「私だったら〜」とってしまうほど考えさせられるものまであった。そして、私はこの本を読んだからは、ネコはいつもどう思っているかという疑問が強くなったという訳だが、物語は普通におもしろいので読んでもらいたい。一方、私は出来るだけいろんなネコ達と触れ合っていきたいと思う。ネコや動物が大好きと言うわ

けではないが、やはり「吾輩も猫である」のように個性いっぱい、とてもおもしろくて愛らしいネコ達にいっぱい会ってきたので、そう言う楽しみ方でもありだと思っただ。この本を読んで少しでも、ネコや生き物について興味を持ってもらえたら私はうれしい。



## 『殺人犯はそこにいる』

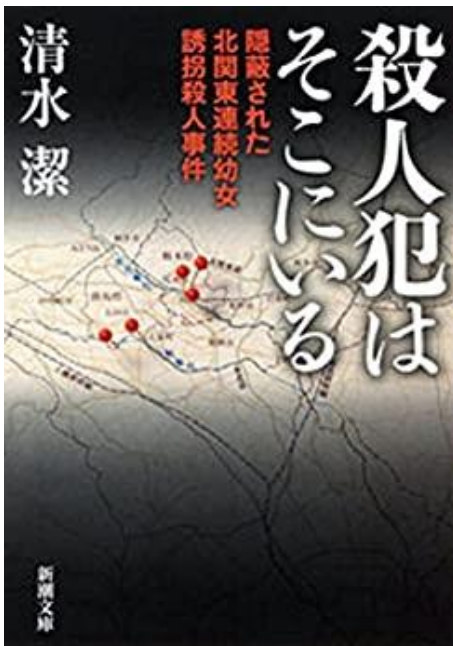
大庭雄治

みなさんはこれまでにあった冤罪事件について、知っているだろうか？と調べてみたところ百二十件以上もあるらしい。思わず私もビツクリしてしまった。そんなにも多い冤罪事件だからもちろん本はある。その一冊が清水さんの「殺人犯はそこにいる」だ。私はたまたま部室にあったので読んで見ることにした。

この本は冤罪事件の一つの「足利事件」のことについて書いてあり、その事件を追っかけてきた記者目線で書かれている。私も最初は、足利事件のことを知らなかったが、この本を読んで基本的なところから細かいところまでよくわかった。そこで、色々な人との関わりがあり、支えられながら事件にのめり込んでいく記者の姿を見て、「どんな事件でも、一人の人が一生懸命動けばみんなが手伝って

くれる。」ということがわかる。

確かに、そのことは自分にも当てはまるんじゃないかと思う。この本からはみんなから何もされなくても、一生懸命がんばれば、いずれはみんなが支え、助けてくれるということに。それなら自分もやりたいことに熱中しようと思っってしまった。まずはこの本を読んで欲しい。そして、人それぞれ思うことは違うと思うが、何かを感じて欲しい。



## 『神去なあなあ日常』

大庭雄治

みなさんは、もし知らないところに放り込まれて、「今日から林業をして働け。」と言われたらどう思いますか？今回は高校を卒業したらすぐ、このような状況にさせられた少年の物語を紹介していきます。その前に、タイトルにある「なあなあ」とはなんだ！？と思う人も多いと思うので言いますが、なあなあの意味は「相手と適当に折り合いをつけ、いい加減で済ませる。」という意味なので、あまりいい印象がありませんが「仲間感覚で事を済ませる。」という意味もあります。つまり、親しいように軽く接するということです。

実際に、その主人公で「勇氣」という人がいるのですが、高校を卒業したらフリーターで食べていこうと考えていたらしいのですが、「神去村」というなあなあとした感じ



の村の林業に親が勝手に申請していたらしく、神去村に放り込まれてしまいます。この「神去なあなあ日常」という本には、そんな勇氣の神去村での日常が書いてあります。実際に読んでみると、ドキドキ、ハラハラするのですが、少しホッとするような内容です。私は、読んで見て損はないと思うので、ぜひ読んで見て下さい！

『言語情調論』 折口信夫

静岡聖光学院 国語科 杉山 武

折口信夫は中学五年生で『国歌大観』を読み通し、和歌の表現の至りつくした姿は中世の勅撰集の『玉葉集』と『風雅集』の歌風であることを見極めたという。これが卒論だというから次元が違う。

古代人の言葉の音、匂い、そしてその時代の色などを古人と同じように感じていた折口信夫は既成の言葉、近代欧州から輸入されてきた言葉や概念では表現し切れないと感じ、周りからは特異な用語や論旨を用いた。「まれびと」「常世」「貴種流離譚」「もどき」「万葉びと」「古代のむら」などの言葉がそうである。折口信夫が古代人たる所以である。「情調」とはひらたく言えば気分のことである。



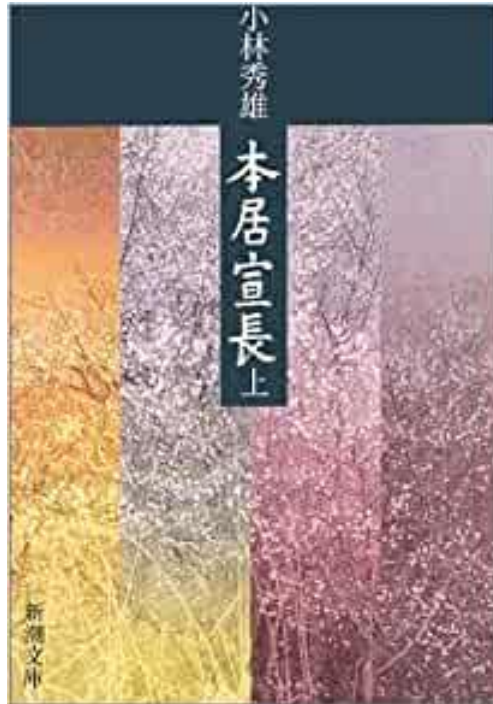
## 『本居宣長』 小林秀雄

執拗なまでに緻密で弟子が戸惑う遺言書はそのまま本居宣長の学問の在り方を表している。彼の遺言書は彼の最後の述作と呼べる。契沖、荷田春満、賀茂真淵、本居宣長、平田篤胤等、当時の宣長の儒学観は徂徠の影響下にあった。折口信夫は宣長の「物のあはれ」という言葉が王朝の用語例を遙かに越え、宣長自身の考えを、はち切れる程押し込んだものであることに注意を促す。

大和魂、大和心が普通、いつも「才」に対して使われているのは、技芸、知識に対して、これを働かす心ばえとか、人柄とかに重点を置いてきた言葉と見て良い。読書に習熟するとは、耳を使わずに話を聞くことであり、文字を書くとは、声を出さずに語ることである。それなら文字の扱いに慣れるのは黙して自問自答ができるという道を、聞いて行くことだと言える。

宣長は稗田阿礼、紫式部の声を聞き、小林秀雄は宣長の

声を聞いたのである。



## 『名人』 川端康成

自分は将棋は指すが、碁は分からない。直木三十五は碁について「無価値と言えば絶対無価値で、価値と言えば絶対価値である」と言ったという。対局者たちの動作やその場の雰囲気やあらゆるディテールを些細に描き出しながら、それらがすべて盤上の黒白の争いに集中し、奉仕するように安排した作品である。この作品は名人が亡くなってから、二十年近く経過して、始めて作品『名人』が完成することができたという。

幼少の頃から肉親の数々の死に会い、死者の世界に対して生きた感情を持つようになり、死んだ人間だけがはつきりした形をなしている、とそのような他の川端康成の作品の系列の中に於いてもこの作品は異彩を放つ。川端康成の作品の中でも傑作であると思う。ノンフィクションとフィクションの壁を越えた作品と言える。沢木耕太郎を想起した。沢木耕太郎が目指した頂点の一つがこの書き方ではな

かったか。



## 『青梅雨』

永井龍男

宮本輝がいったったか、この永井龍男の短編を絶賛していた。彫琢を極めた文章、市井の人々の人生の機微を見事に切り取る力は早くから社会に出て大人の世界を生きてきたからであろう。その点、池波正太郎に似ている。藤沢周平の優れた短編にも相通じる点がある。

言葉の一つもおろそかにしない態度、特に「青梅雨」における会話の妙、「冬の日」の絶妙な文章。他には「二個」「名刺」「電報」「枯芝」「そばやまで」「狐」などが良い。昔、国語の問題文に「青梅雨」「二個」が用いられていたことを思い出した。





## 『ヴェネツィアの宿』 須賀敦子

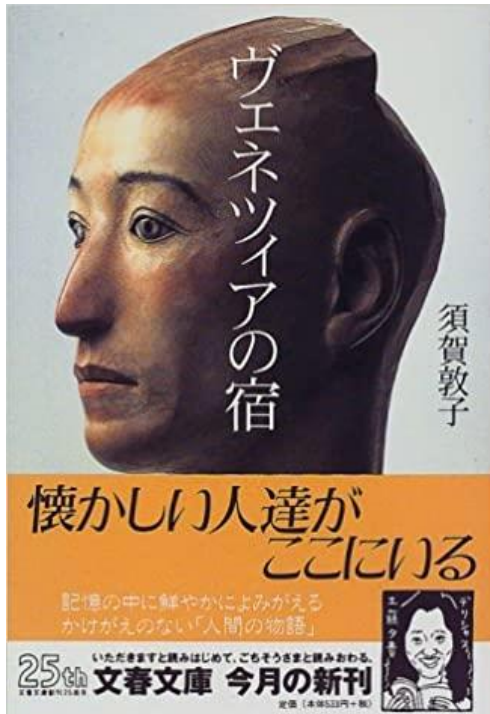
父と娘の和解と融和の物語。裕福なお嬢さんが西洋文明に憧れる、ロマンチックな話ではない。一九五〇、六〇年代、一人で欧州で生活したこと、日本での生活、過去と現在、日本と欧州等の時間軸を、時と場所を飛び越えてゆるやかに描写する。そんな中での、父との関係を描いた物語。

「どこにおいても大丈夫って自分のことを思えるようになる、でもそれはいつのことになるのか、自分の中の日本のカードを大切にしていかななくては……」うっかり人生を過ぎるのを許さない人であり、強情で意志のある人、友情を求めて孤独を怖れない人、聡明で優れた文章力、語学力を持つ人。甘さも弱さも見せない、常に自然体。体で欧州を掴んできた人。

サン・デグジュペリの言葉に「自分がカテドラルを建てる人間にならなければ意味がない、出来上がったカテドラルの中に、ぬくぬくと自分の席を得ようとする人間になっ

てはいけない」人生をサボラナイ。

須賀敦子は他の作品も素晴らしい。『ミラノ 霧の風景』も良かった。大抵の人間が外国へ行くと、日本と比較する文化批評もしくは日本を卑下し訪れた国、都市を賛美するという感想に終始する。それは点から点への観光客としての視点である。須賀敦子は常に生活者の視点である。



## 『広場の孤独』

堀田善衛

第二次世界大戦後、愛国心・祖国愛を否定若しくは主だった批判・反省により、日本人という存在が海外に出て、そこで従事していく知識人にとっては稀薄なものとなった。その辺のたゆとう孤独の姿を「広場の孤独」として抽出した作品は歴史的傑作だと言える。

堀田善衛は加藤周一などと同じく、常に眼差しは世界と日本を往来し、様々な角度から日本及び日本人を浮かび上がらせる。コスモポリタンという言葉が本当に似つかわしい。「考える」意識を具体的に描き出す方法の発見、ここに近代日本作家の負わされた大きな且つ困難な課題があるとすれば、この小説は「考える」小説である。優れた小説は考えさせるものである。その点、この作品は曖昧な日本人を外国人との会話を通して見事に描いている。



## 『新編 木馬と石牛』 金関丈夫／大林太良

南方熊楠に準ずる博覧強記。和漢洋にわたる知識にとどまらず、その切り口、問題提起が実に新鮮である。表題の「木馬と石牛」は東西交流を見る上でも面白い指摘である。トロイの木馬が中国にも同じような説話があることを初めて知ることができた。また「やまとたける」ではタケルの伝をエディプス説話に求める着眼点も独創的で、スサノオとの比較・類似も関心をそそられた。

「杜子春系譜」もまた面白い。芥川龍之介の「杜子春」が唐代伝奇の「杜子春伝」を基に翻案されたものだということは知っていたが、仙術に於ける中国の関心、位置付けがこの説話の元になっているという指摘が実に面白かった。ペローの昔話に採録されているシンデレラの話は、唐の段成式の『酉陽雜俎』に収められていることも改めて認識ができた。同じように「シュー・テスト」もあることから、シンデレラの説話は奥が深い。男子にも纏足があったこと

もこの本から知ることができた。



## 『新版 きけ わだつみのこえ』

### 日本戦没学生記念会

極めて知的レベルの高い学生の最期の手記である。知のフィルターを通して戦争の生の声を聞いた思いである。文学、哲学といった所謂教養をスポンジの如く吸収していた旧制高校時代の知的共同体の血と汗を絞った連盟の書である。

「真に日本を愛する者をして立たしめたなら、日本は現在のごとき状態には、あるいは追い込まれなかったと思います。世界のどこにおいても肩で風を切って歩く日本人、これが私の夢見た理想でした。空の特攻隊のパイロットは一器械に過ぎぬ…」

吉田松陰の辞世の和歌「…親思う心にまさる親心今日のおとずれ何ときくらむ」

自分たちが始めたわけでも、納得して同意したものでも

ない侵略戦争に駆り出された学徒兵たちが、死を前にしてなお学問への情熱を絶やさず、真理と事実を探究しようとしたこと、平和と自由への痛切な希望を後世に託したことは本書のいたるところに示されている通りである。

新版  
きけ わだつみのこえ  
日本戦没学生の手記  
日本戦没学生記念会編



難渾な状況の中で、最後まで鋭敏な魂と明晰な知性を失うまいと努め、祖国と愛するものの未来を憂いながら死んでいった学徒兵たち。1945年の刊行以来、無数の読者の心をとらえ続けてきた戦没学生たちの手記を、戦後50年を機にあらためて原点にたちかえって見直し、新しい世代に読みつがれてゆく決定版として刊行する。

書 157-1  
岩波文庫



『新訂 日暮硯』 校注者 笠谷和比古

正直な徳を讃え、温情と思いやりの心をもって事に当たる態度と、しかし決して温厚一辺倒ではなく、人間の怠慢とかシステムとしての欠陥に対しては徹底的にこれを正していく厳格で合理的な側面との両面を併せもつ。即効的な財政収支の改善というよりも、もつと政治の全体に対する信頼や誠実さの回復といったものであり、長期的な見通しを持ったもの。通常のやり方では解決不能な状況に立ち至った時、形式的・合理的なものの柔軟な取り扱い、自由自在な配分、これこそが『日暮硯』の説き描くユニークさである。

日本人の中にある「人間」「日本という宗教」「道徳」「暗黙の了解」「以心伝心」などといった要素と恩田木工という徳のある人物との邂逅による政治手腕の書。



## 『一色一生』 志村ふくみ

この本は大佛次郎文学賞を受賞している。この賞は最も美しい日本文を書いた本に贈られる賞である。この本の質の高さ、詩品溢れる文を見れば納得である。柳宗悦、河井寛次郎、宮本憲吉、芹澤銈介などの優れた先達の知己を得て、染職家として志村さんは前人未到の境地に至った。

文の一つ一つが素晴らしい。いくつか抜き出すと、

「植物にはすべて周期があつて、機を逸すれば色は出ないです。」「工芸の仕事はひたすら運・根・鈍に尽きる。運とは自分にはこれしかない。根は粘り強く一つを繰り返し繰り返しやること。鈍とは物を通しての表現であるから、直接ものをいうわけにはいかない「鈍」な仕事。」

「引き合う二つの力がものを作る人間の内部でひそかに軋轢を起こし、火花を散るほどに熱したとき、ものが生まれる、ものが磨き出される。」

「人間には自然に具わった機能、頭、心、手があり、工芸

はこれらを偏りなく使う数少ない営為。」「本当に捨てたものは、また別の形で必ずかえって来る。」

志村さんの本を読み、生き方に接すると、人生の要所要所には何人かの先達がいいて、自分より幾まわりも大きい包容力、洞察力、その人柄、なされた仕事などを通じて、人は育っていくのだ、としみじみ感じる。



## 古事記と現代の関連

高校1年C組

渡邊歩夢

古事記を読んだ事があるだろうか。古事記とは、日本における最古の歴史書である。よく間違われる日本書紀だが、ストーリー自体はほぼ同じなので無理もないだろう。(日本書紀は中国風な書式で、漢字で記されているが、古事記は平仮名で記されている。)ただ、いきなりあなたの前に古事記が置かれた時、あなたは手に取って読むだろうか？文芸部の自分が言っては良くないが、私の前に古事記が置かれても読まずに、別の書籍を手取るであろう。少なくとも興味があり、読む人は居るであろうが、十中八九は読まないだろう。要するに、取っ付き難いのである。

しかし、古事記を調べていると、皆古事記が由来のものに触れてなくは無という事が分かった。一つはゲームである。あなたは携帯ゲームなどをプレイした事があるだろ

うか。プレイした事がある人は特にそのゲームの中に登場するキャラクターで、「イザナギ」や、「イザナミ」などの名を聞いた事があるだろう。前述の二つは、古事記に登場する神である。(その伝説については調べて見てほしい)他にも、ジブリ映画、「千と千尋の神隠し」は、古事記に類似した描写がある。「イザナミ」が、「黄泉国(よもつくに)」という果実を食して化物に変身するという場面があるが、そこが「千と千尋」の序盤のワンシーンに似ているだろう。

これらのように、私たちは意外にも知らず知らずのうちに古事記の人物、ストーリーを見ていたのだ。これをきっかけに古事記を有名な話から、少しずつでも読もうと思っ

## 静岡県と古事記

高校1年C組

渡邊歩夢

古事記をご存じだろうか。現存する歴史書に関しては最も古とされる史書である。日本書紀とは内容は大差ないようである。(日本書紀は中国の書物にならない、書式は漢字である。一方本題古事記は、日本式のひらがなで記されている。要するに、書式が違うのだ。) 私もこの文章を書きあげた際の情報収集では、日本書紀と混ざってしまい、混乱してしまった。

私が日本書紀のことについて粗方調べていて気になったことがある、それについて調べた。日本書紀に出てくる、倭建命【ヤマトタケルノミコト】(以下ヤマトタケルと表記)の伝説と、聖光学院をわずかに東へ進んだところに位置する「草薙神社」に何の因果関係があるのかということである。なぜこんなものが気になったかというところ、私が草薙神社に訪れたとき、ヤマトタケルの石像が目

入ったからである。余談だが、ヤマトタケルには二通りの表記があり、一つ目は、前記の通りの「倭建命」。これは古事記的な表記である。一方、日本書紀的な表記はというと、「日本武尊」となる。これにならって、この話の中では「倭建命」と書くことになる。

さて、草薙神社とヤマトタケルとの関係であるが、これについて端的に述べると、関係があるようである。草薙神社について、祭神はヤマトタケルとなっている。このヤマトタケルいる草むらに賊が火を放ってヤマトタケルを焼き殺そうとしたが、天叢雲剣(あめのむらくものつるぎ)という剣でヤマトタケルが火を放たれた“草”を“薙”ぎ払って難を逃れたという伝説が残っている。「草を薙ぎ払った」＝「草薙」となったのである。

この伝説の中の天叢雲剣(あめのむらくものつるぎ)は、有名な三種の神器の一つに数えられる剣のことである。今は熱田神宮に納められている天叢雲剣(あめのむらくものつるぎ)であるが、かつては草薙神社に納められていたそう。日本最古の歴史書の舞台が地元にあるのは、初め



て知った上、驚いた。また、県内にある地名で古事記が由来となったのは、他にもある。前述の草を薙ぎ払った地は、後に「焼津」という名前で万葉集の詩に登場する。因みに、焼津を流れる大井川の名も、古事記、日本書紀から確認できる。

このように、「静岡は以外にも古事記に縁があったのだ。

## 「古事記のしるし」

高校1年A組 金子 和生

まず古事記とは、日本に現存する最古の歴史書であり作者がいないとされています。作者がいらないというのはどういうことかよくわからないと思いますが、そもそも古事記は作者もわからなくなった古い伝承の物語を天武天皇が稗田阿礼に暗唱させて太安万侶が筆記したものでその物語自体を作った人はいないということになります。

ここで、気になるのが何故暗唱をさせたのか。まず一つ目の理由は天智天皇が大化の改新を起こした時のきっかけとなった乙巳の変で朝廷の実権を握っていた蘇我氏の屋敷が焼かれてその時に保管されていた史料が焼かれてしまったこと。二つ目は天武天皇が即位した後には律令制、戸籍制度、都の整備などをする際に周囲を説得する必要があったので古事記という説得材料を書かせました。

しかし、事実古事記とは日本書紀のように大和王権の国家支配と正当性を示すために編まれたものではありません。古事記にはヤマトタケルのように正統からはみ出した悲劇の人物だったり、御子同士の兄弟げんか、反国家的な思想などがしばしば登場してきています。ここで矛盾が生じます。僕が先ほど述べた通り一般的には、天武天皇が国家当事者のために話をまとめさせたとされていますが実際書かれている内容は反国家的だったり悲劇の人物だったり国家にとって必要のない邪魔な思想がかかれています。盾しています。最初に言った内容が真実かどうかは未だにわかっていません。そもそも稗田阿礼が存在する確証は現

在りません。やはり、歴史書の魅力はこのようなところではないのでしょうか。実際にどうであったかわからないものを自分で考察するのも楽しみの一つであると思います。

次に、古事記の内容について、特に代表的であるのが天照大御神の「天岩戸」、須佐之男命の「ヤマタノオロチ退治」、大国主命の「因幡の白兔」です。

ここで紹介したいと思うのは「天岩戸」についてです。簡単な内容は天照大御神が岩戸に隠れてしまい、世界は闇に包まれてしまうのですが、神々が知恵をしばって天照大御神の救出に乗り出すといった内容です。なぜ天照大御神が岩戸に隠れてしまったのかは、天照大御神の弟である須佐之男命が御殿や田んぼにいたずらを働きそれを天照大御神がかばいます。だが須佐之男命は天照大御神が機屋で神に奉げる衣を織っていたとき性懲りもなく屋根に穴をあけ皮をはいだ馬を落とすため驚いた一人の天の服織女は梭が刺さって死んでしまいます。ここで天照大御神は反省したからです。天岩戸に引き籠ってしまい世界が闇に

包まれ、さまざまな災厄が発生してしまったのでこれはまずいと八百万の神々が救出したというわけです。ここからが、話のメインストーリーです。話し合いでた思金神の案により、さまざまな儀式をおこなうことにし、常世の長鳴鳥（鶏）を集めて鳴かせました。

この時、鶏を集めて鳴かせたことから、伊勢神宮の内宮では「神苑」という庭園に「神鶏」と呼ばれる鶏を放し飼いにしています。

次に八咫鏡、八咫瓊勾玉を作ります。そして神々で岩戸の前でお祭りをします。神々があまりにも大騒ぎして盛り上がっているので天照大御神は気になり岩戸から顔をのぞかせます、天照大御神が「何故私が岩戸にいて、世が闇に包まれているのにそんなに楽しげなのか」問うと、天宇受賣命（アメノウズメ）が「貴方様より貴い神が表れたので、喜んでいるのですといひ」、気になって身を乗り出したところを神が岩戸から引きずり出すという話です。すべての元凶の須佐之男命は追放されました。

ちなみに、天岩戸と言われている場所が数か所あり実際

物語上の天岩戸がどれかははっきりしていません。古事記は現代の宗教に深くかかわっており古事記で出てくる天岩戸のような場所に神社を立てて祀っています。

古事記は、古代日本の書物の中で個人的に群を抜いて読みやすく面白いので手を取りやすいのではないかと思えます。現代の物語本にも引けを取らない内容なので是非調べたりしてみてください。

## 「古事記」について

野垣宏太

「古事記」とは、七二二年に出来上がった現存最古の歴史書である。「古事記」は、天皇のことだけでなく、当時の日本の政治、王朝について書かれている。

よく話に挙がることだが、「古事記と日本書紀とはどう

違うのか」という疑問について先に述べておく。國學院大學によると、『日本書紀』は中国の歴史書に倣って、日本でも本格的な歴史書を作ろうという動きの中で作られたものである。そのため、中国でも読めるものを用意して、漢文体で、時系列順に記録されている。『日本書紀』は成立の翌年から宮中において読書会が行われた記録があり、中央政府の官人が勉強目的で読んでいたことがうかがえる一方で、『古事記』は、日本の古語を書き記すために、崩れた漢文体を用い、国内向けの文章で書かれている。内容は、神々の世界から各天皇の時代の出来事を描く点では『日本書紀』と変わらないが、登場する神々や人々が個性豊かに描かれ、それぞれが物語がドラマチックに描かれている。そのため皇後の娯楽用、または皇子の教育用に作られたという見方がある。完成後に広く読まれた形跡がないのも、宮中内部の私的な文書であったからとも言われる。しかし一方で、氏族系譜に対してこだわりを見せているところから、天皇家と各氏族との関係性を明示し、天

皇中心の国家体制を確立するために作られたという見方等もある。いずれにせよ、国の正史と位置づけられる『日本書紀』と比較すると、『古事記』は成立の意図や性格など、謎に包まれた部分が多くあり、それが逆に魅力となって読み継がれている。と述べている。

その中で、人生の大半を古事記に捧げた日本人がいた。それは、本居宣長である。彼は、医学の傍らに、源氏物語などの古くから知られわたる日本の作品について研究し、四十四巻もわたる「古事記伝」を執筆した。

なぜ、本居宣長は古事記を三十五年もかけて研究し、古事記伝を執筆したのか。彼は、もともと考えることが好きだった。彼は四六時中何か物事を考えていた。そして、考えることの楽しさが原動力となり、研究をすることの動機となった。本屋で見つけた古事記をひたすら読み、答えが出たとしても、それで済ませず、何度も考えた。では、彼は何をしたかというところ、「読む」という言葉の持つ意味をひっくり返したのだ。読み方に多

少怪しいところがあっても、意味が通れば読めたと普通は考える。ところが宣長は、「古事記」は「意味」よりも「読み方」が大事だと主張した。例えば、「古事記」は「天地初発」という文字で始まる。漢字を見れば、天地が初めてできたことだと見当はつくが、そういう大雑把な意味ではなく、この四字をどう読むかが大切だと考えたのだ。

このように、古事記だけでなく、多くの偉人から得ることは想像を遥かに上回っている。これほど歴史には大きな力を秘めているのだ。「故きを温ねて新しきを知る」とも言うように、歴史を見直すことも大事だと考えている。これは現代人にも必要な力ではないかと思っている。

## 『古事記』

大庭雄治

突然ですが、今年の文芸部は「古事記」についてピクアップしています。先輩達の作品も見ていただけたでしょうか？私は、古事記と言っても話が沢山あるので、その中に出てくる「人柱」（神の数は柱で数えるらしい）の「大国主神」について調べて見ました。間違っているところがあるかもしれないのでその時は甘めに見て下さい。

（精一杯調べましたが）早速話し始めるのですが、大国主神の名前はもともと「オオナムヂ」という名前です。その名前になる前、オオナムヂには兄弟がいましました。ただし、オオナムヂは兄弟からバカにされていました。ある日、オオナムヂの兄弟達から反感を買い、殺されてしまいます。どうやって死んだのかというと、

「赤いイノシシがいるから捕まえろよ。」と言われたのだが火で真っ赤になった大きな石でそれを捕まえて死んでしまいました。ただし、オオナムヂは生き返ったのです。「なぜ!？」と思うかもしれませんが、オオナムヂの母が二柱の女神に頼んだらその二柱の女神が不思議な薬を作って飲ませたら生き返ったのです。私は、「人でも生き返るんじゃない?」と思ってしまいました。そしてオオナムヂは兄弟から逃げるのですが、しつこく追いかけてくるので自分の先祖の「スノサオ」のところに逃げ込みます。そしてオオナムヂはそこで、スノサオから出されるたくさんの難題をこなしていきます。

ただし、スノサオはオオナムヂを助ける気はなかったらしく、「あそこにある矢を取ってこい」と行かせた後に火を放ったりしています。ただしスノサオが無事に帰ってくるのでびっくりしたらしいです。オオナムヂが火に当たらないところを見つけたのです。オオナムヂは今後結婚をする「スセリビメ」の助けもあつ

たらしいです。

そしてある日、オオナムヂとスセリビメはスノサオの武器を奪って逃げてしまいます。これは、スノサオもビックリ！！そうしてオオナムヂは兄弟をスノサオの武器で追い出し、「中つ国」を治めました。その時にオオナムヂは名前を「大国主」に変えたそうです。ただし、神々の住むところを治めている「アマテラス」という神様が、「こいつが治めるのはなあ」と言ったのですが、なぜそうなったのかというと、実はアマテラスのみこが治める国だったらしく、そのため大国主神が邪魔だという事だったらしいです。

しかし、「自分が中つ国を治めたい」と思っていた神がいました。彼は、「アメノワカヒコ」という神様なんです。アマテラスから中つ国を平定にする命令を受けた後に、大国主神の娘と結婚しました。（平定とは、その土地を安らかにすること）何故結婚したのかというと、大国主を安心させて国を盗む機会をうかがっていたらしいです。そんなことあったら怖いで

すねり。そんなこんなで国をのつとれないまま八年が過ぎました。八年も経ってしまったので何をやっていいのかと、アマテラス達は話を聞くためにキジをつかわして、さぐらせることにします。私は、八年はおそいと思います。そして、キジをつかわせたのですが、他の神にそののかれたからかそのキジを射殺してしまいます。ただし、その矢がアマテラス達のところまで飛んできてしまいました。「運悪いな」と私は思っています。皆さんはどう思いますか？

それを見たアマテラス達は矢に呪文をかけて投げ直しました。その内容は、「矢よ。矢よ。アメノワカヒコが放った矢よ。お前がもし、悪しき神をねらってそれた矢なら、アメノワカヒコにあたるな！しかし、もし、アメノワカヒコに悪しきくらみの心があるなら、飛んでいって、アメノワカヒコを殺してまえ！」と言ったようです。あくまでお話ですから、もう少し短いかもしれませんね。私は、そう信じたいです。とても長いので、意味としてはそのままのとうりに、「ア

メノワカヒコが悪い神を狙ったなら当たるな！悪い心がアメノワカヒコにあるなら、殺せ！」ということですよ。アメノワカヒコには、中つ国を支配しようとしていたので、当たってしまいました…。そして、アメノワカヒコの妻はとても悲しんだらしいですよ。

私だって、大切な人達には生きていて欲しいですよ。ただし、中つ国を平定にする問題は解決していません。だから話し合っていたところ、人柱の神が、「イイオツバリか、その息子に頼もうぜ！」と言ったので、アマテラスは、使いを送りました。そしたらイイオツバリが、「ウチの息子なら出来る！！」と言ったらいいです。だから、イイオツバリの息子の「タケミカヅチ」という神様が、中つ国に行くことになりました。その時に、アマテラスはわざわざ中つ国まで送って行ったとか…。私ならしないかもしれません。

そして、大国主神とタケミカヅチの二人が対面するのですが、タケミカヅチが、「中つ国を譲る気ある？」と聞きます。そしたら大国主神は、「私じゃ無理だか

ら息子達に聞いて？」というのですが、息子達は譲ることを認めてしまいました。大国主神も認めることにしたので、「すみかは守ってね。」と言ったらしく、それを条件に和解をしたらしいです。色んな事がありました。私には、生きる事ができた大国主神はすごいなあ、と私は思います。一生懸命話していたら、古事記についてもっと知りたくなってしまいましたね。